

しおんだより VOL.70



看護部長と各師長の連携でしっかり看護します

私が研修医になったころ（といっても、もう30年以上前ですが）医局の教授や、直接の指導医（オーブン）と並んで、色々と教えていただいたのは病棟の看護師長（当時は、婦長と呼んでいました）。

各病棟・部署の師長と看護部長で、定期的にミーティングを開催し看護の質の向上に取り組んでいます。

私が研修をした大学病院の病棟の師長にも、大変お世話になり、詰め所でカルテを書いていると、ふらっと寄ってこられて「先生、あのね…」と患者さんとの対応のことや、看護師さんへの指示の出し方など、温かくも厳しいご指導をいただいたものです。

当時は、正直「うるさいなあ…（スイヤン）」と思わなくもなかったのですが、1年間の大学病院での研修を終えて、大阪府立病院（現在の大阪急性期・総合医療センター）で研修を行うようになったときには、そのときのアドバイスがとても役に立ちました。

医師としてキャリアを積んでくると、やはり、病院での医療・看護の質を担保するためには、看護師長が果たすべき役割は極めて大きいと思います。当院も、この数年、堀看護部長のイニシアティブのもと、看護師長の存在感がとても大きくなってきました。まだまだ、完成形ではありませんが、日々、進化しつづけてくれると期待しています。当院の看護部のこれからの、是非、ご期待いただきたいと思います。

高校生の見学実習を行いました

先日、ちょっとしたご縁もあり、高校生の病院での見学実習をお受けしました。

お話を聞くと、ご家庭の方針で、中学生のころから海外のインターナショナルスクールに進み、今は、高校2年生とか。将来、お医者さんになりたいそうで、しかも、現在も海外に住まわれていることもあってか、海外の医学部への進学を希望されているとのことでした。

最初、少し面談して、午前中は色々と一緒に行動したのですが、「将来、何科を希望してるの？」と聞くと、「外科に進みたいです」と、即答でした。私も、外科に進みましたが、高校生のころには、漠然とそういう希望を持っていたので、懐かしくなりました。

しかし、中学から海外に出て、海外の医学部に行って国際的に活躍したいなんて、僕の学生時代には全く考えられないことで、時代は変わったなと思いました。



現在、海外の高校に通うYさんは、海外の医学部を受診し、外科を専攻したいのだそうです。自分の高校時代を振り返って反省しました…。



兵庫県出身の、すらっとしたイケメン後輩くんがやってきました。

33年前の熱かった夏を思い出しました

私と狭間副院長は、ともに、同じ大学で医学を学びましたが、クラブ活動も同じ「漕艇部」でした。5人がチームになって、ボートを漕いで速さを競うという単純ですが、技術や体力だけでなくチームワークも問われる楽しいスポーツでした。

先日、その大学漕艇部の後輩が、病院まで尋ねてきてくれました。私たちがそうであったように、部報ができましたので、届けに行くついでに寄付金を受け取ってくるというミッションを果たしに来てくれました。折角なので、最近の部内の近況や、大会での成績などを聞いていましたが、私たちのころと違って、大変強くなっていて驚くとともに、自分も熱くなっていた夏の大会を思い出しました。

最後に、折角だからと写真をとりましたが、私も狭間副院長も心なしか若々しくなっているのは、青春時代の気持ちになったからかも知れませんね。（文責：狭間研至）

しおんだより 第70号 発行日：令和8年8月15日

発行人：狭間研至

発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp